

議会報告会（H31.1・2開催分）に関するアンケート調査結果

■調査概要

【調査目的】

市民に開かれた身近で信頼される議会の実現に向けた取り組みの一つとして、市民の率直な意見及び要望を把握し、今後の取り組みの参考にしていくことを目的に実施。

【調査対象】

議会報告会（H31.1・2開催分）の参加者

- ・6会場の延べ参加者：102人（受付簿記載者）
- ・アンケート協力者：84人（協力者率：約82.4%）

| 日 | 地区 | 場所 | 担当班 | 参加人数 |
|-------|----|--------------|-----|------|
| 1月30日 | 篠山 | 篠山市民センター | 1 | 16人 |
| | 城東 | 城東公民館 | 2 | 20人 |
| 1月31日 | 丹南 | 四季の森生涯学習センター | 1 | 17人 |
| | 今田 | 今田まちづくりセンター | 3 | 6人 |
| 2月1日 | 多紀 | ハートピアセンター | 3 | 19人 |
| | 西紀 | 西紀老人福祉センター | 2 | 24人 |
| 合計 | | | | 102人 |

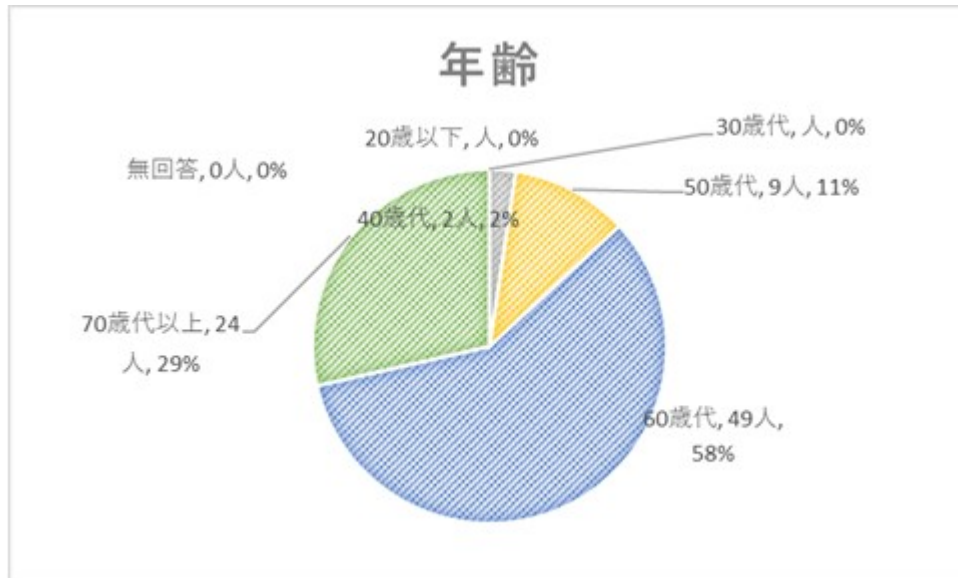
【調査項目】

1. 参加者の属性……………2～3頁
2. 参加回数及び満足度……………3～5頁
3. 議会報告会開催情報の入手状況……………5頁
4. 議会に求めること……………6頁
5. 自由記述……………7～8頁

1. 参加者の属性

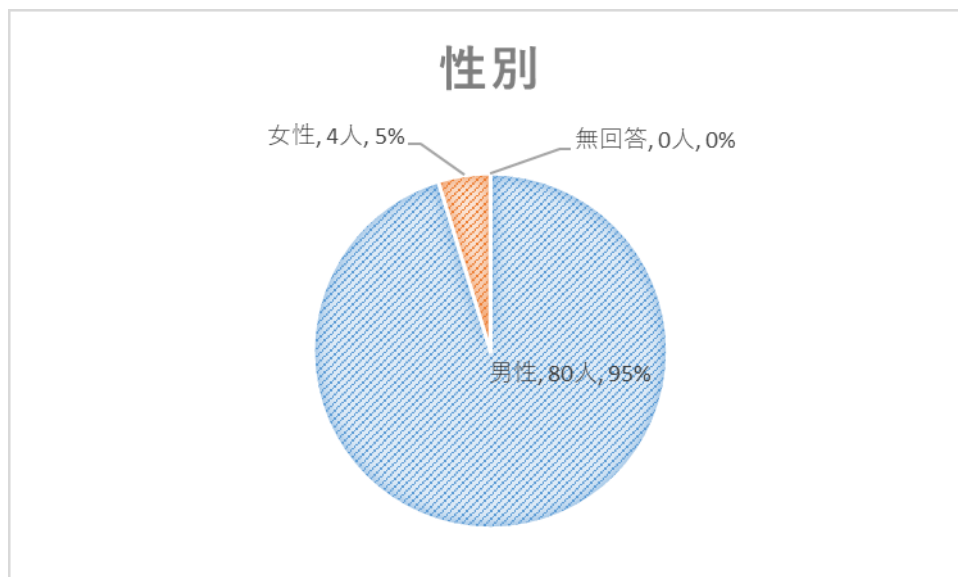
【年齢】

- ・60歳代が一番多く、50～70歳代以上が全体の98%（前回80%）を占めており、40代は2人（前回33人）、30歳代は0人（前回2人）、20歳以下は0人（前回0人）であった。



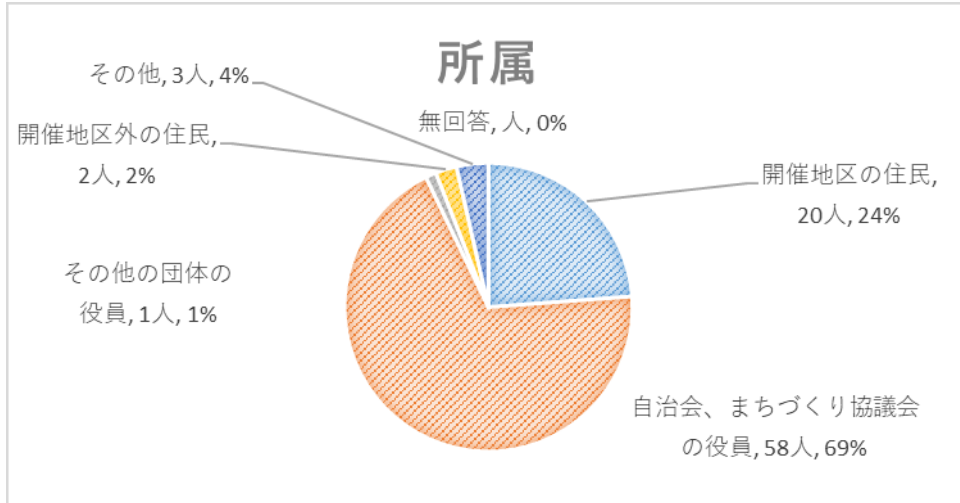
【性別】

- ・「男性」が95%（前回90%）を占めている。



【所属】

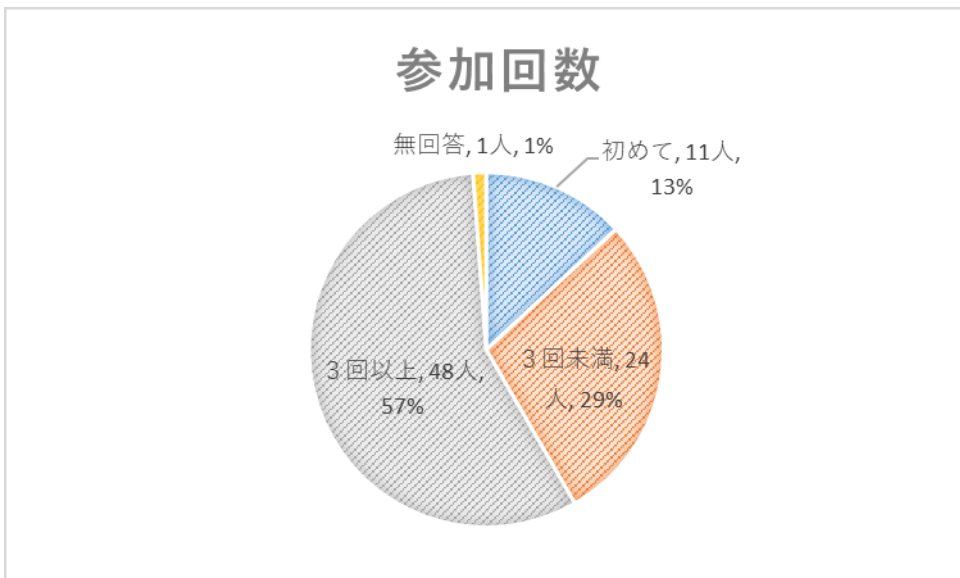
参加者の所属については、「自治会、まちづくり協議会の役員」が69%を占めている。次いで、「開催地区の住民」が24%を占めている。



2. 参加回数及び満足度

【参加回数】

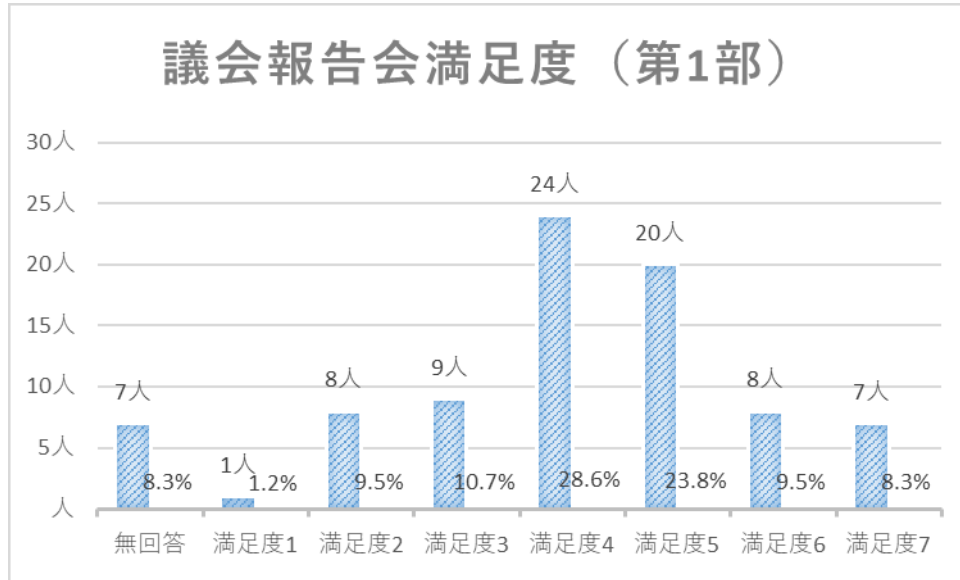
参加回数については、「3回以上」が最も高く57%を占めている。次いで、3回未満が29%を、「初めて」が13%を占めている。



【直近の議会報告（第1部）の満足度】

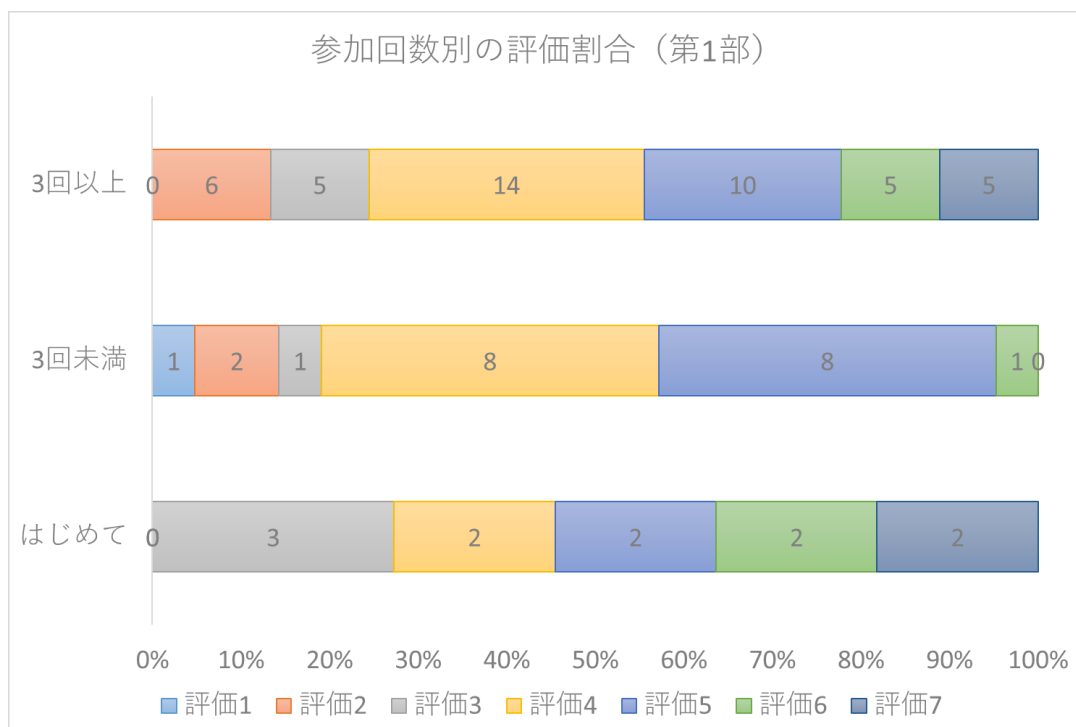
この設問では、満足度を1～7の7段階で回答していただいた。（「1」＝良くなかった、「4」＝どちらでもない、「7」＝良かった）

直近の議会報告（第1部）の満足度については、「4」が28.6%と最も高く、次いで、「5」が23.8%を占めている。満足度の平均は、約4.4であった。（無回答と回答した人を母数から除いて計算）



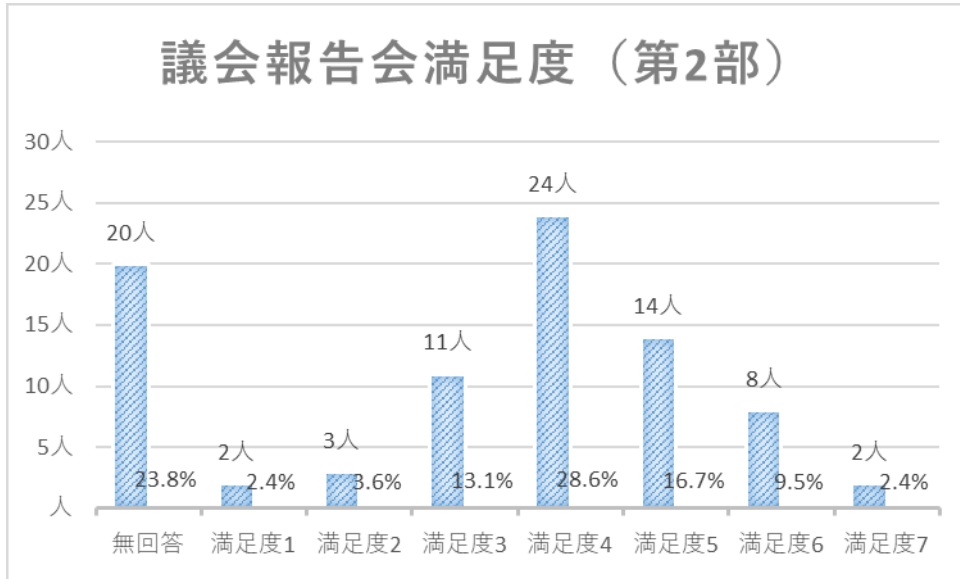
【直近の議会報告（第1部）の参加回数別評価割合】

第1部の参加回数別の評価割合について参加回数別にみると、下記のとおりであるが、参加回数別の評価平均値は、「はじめて」が4.8、「3回未満」が4.1、「3回以上」が4.4であった。



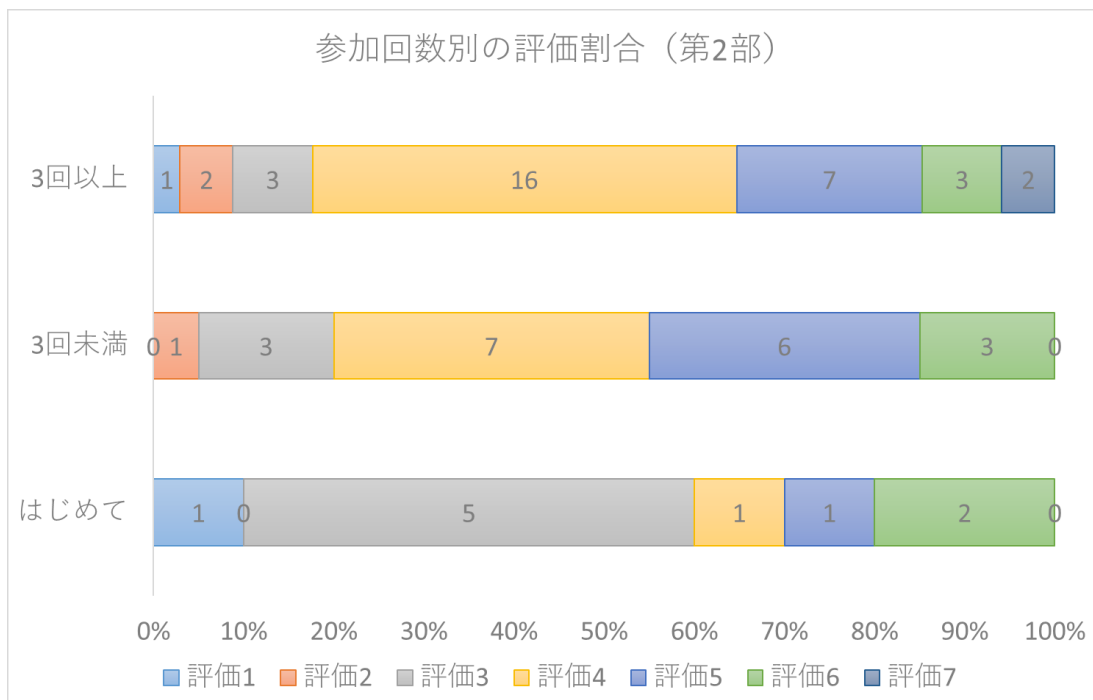
【丹波篠山市の地域ブランド振興についての意見交換（第2部）の満足度】

テーマを設けた意見交換の満足度（第2部）については、「4」が28.6%と最も高く、次いで「5」が16.7%を占めている。満足度の平均は、4.2であった。（無回答と回答した人を母数から除いて計算）



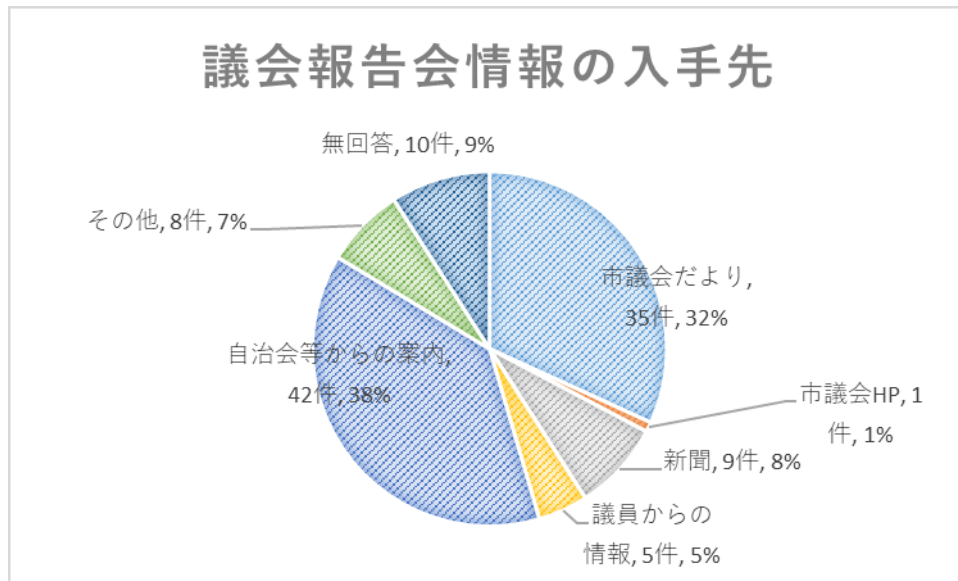
【テーマを設けた意見交換の参加回数の評価割合】

第2部の参加回数別の評価割合について参加回数別にみると、下記のとおりであるが、参加回数別の評価平均値は、「はじめて」が3.7、「3回未満」が4.4、「3回以上」が4.3であった。



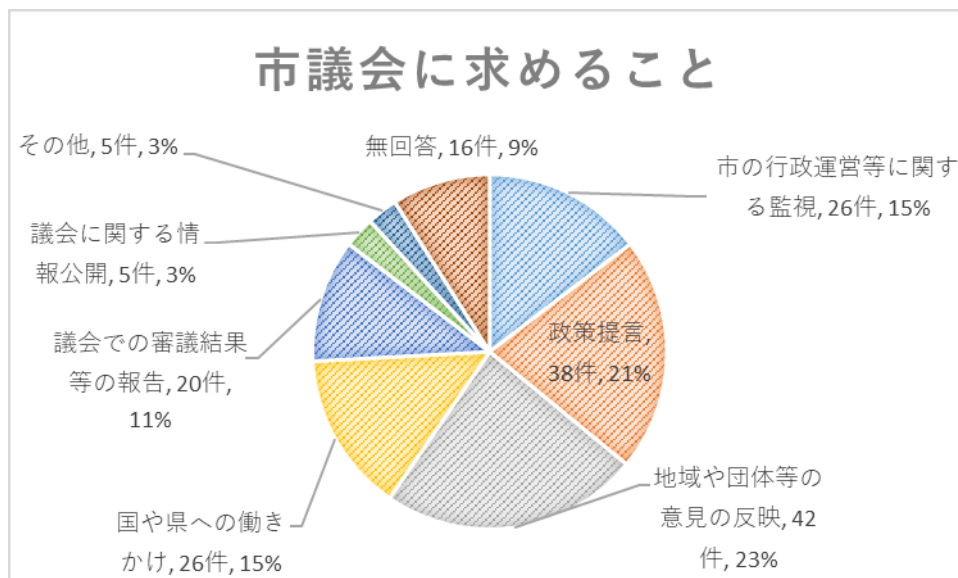
3. 議会報告会開催情報の入手状況【議会報告会開催情報の入手先（複数回答）】

- ・報告会の開催情報の入手については、「自治会等からの案内」が大部分を占めており、続いて「市議会だより」となっている。



4. 議会に求めること【議会に求めること（複数回答）】

- ・議会に求めることについては、「地域や団体等の意見の反映」が23%と最も高い割合となった。次いで「政策提言」が21%、「市の行政運営等に関する監視」及び「国や県への働きかけ」がともに15%を占めている。



5. 自由記述【ご意見・ご感想（要約・抜粋）】

（議会報告会について）

- ・会派での報告会をして欲しい。
- ・参加人数が議会に対する関心度である。
- ・議員定数と報酬で討論会をしていただきたい。
- ・地域密着型の意見交換会を望む。
- ・結果報告に終始していた。報告会ではあるが未来に向けた話も聞きたい。
- ・今後、議会報告会の在り方を考えて欲しい。
- ・報告会をするから来てくださるのではなく、自治会・まち協から議会を招致し、意見を聞く場を設け、地域が政策提案しようとしていることに対する意見を聞くようにしてはどうか（開催するかしないかは地域の任意）。
- ・これだけ多項目の報告は伝えることは難しく、こちらも理解できない。議会広報紙やHPによる周知・報告で可としてはどうか。声での説明が分かりやすいが、実態として参加者数をみると報告会は不要ともいえるのではないか。
- ・西紀老人福祉センターだけでなく西紀北地区での開催を3回に1回は実施してほしい。

（議会に対する要望等）

- ・何も求めるものはない。議会を信用していない。もう少し勉強してください。
- ・丹波篠山市になることで今後観光客がさらに増加することが予測される。デカンショ祭り、ABCマラソン、味まつり等、大イベントがある中で、公衆トイレの整備は議会では話が出ないのか。
- ・政策提言に対する意見討議をもって一般質問等に活かしたらいいと考える。
- ・全国へ視察研修されることも結構なことであるが、身近な市内の問題点を確認していただきたい。各地区ごとに何か所問題のある場所を長靴を履いて、地域の自治会長など視察して問題把握して少しでもカイゼンにつなげてはどうか。名称「長ぐつ現場研修」
- ・他地域でのいいところを紹介してほしい。
- ・自治会の活性化に向けてご指導をお願いします。

（丹波篠山市のブランド振興について）

- ・人口増加に対して施策のひとつとして大規模な工業団地の誘致が出来ないものか。丹波篠山のブランド向上として農産物（黒豆、山の芋など）の規格を定めて質の高いものを提供する仕組み作りが必要かと思う。
- ・ブランド振興の方策の中心として、シティプロモーションを議会としては提案されているが、方向が間違っているのではないか。特に農業では特産物（黒大豆、栗、山の芋など）の生産が減少する傾向にある。生産振興あってこそそのブランド振興だと思う。観光についても同様である。田舎、山奥のイメージのあるまちづくりが、丹波篠山のブランドを維持・発展させる上で大切。
- ・丹波篠山市は観光・特産物拡大であるが（いも、黒大豆、大納言小豆等）、農業者不足で特産物減となっている。対策はあるのか。

- ・若者が農業できる支援・予算が必要と考える。
- ・現在、老人が特産物を生産しているが（技術はプロ・マイスター）、若者に伝授する取り組みが必要。
- ・市民の意識の問題もあると思うが、このような機会にもっと多くの人に参加できる方法を考えることが大切。
- ・ブランドに関して、特産物（農産物）の宣伝のアドバルーンは上げても、それを生産・維持（又は増やす）ことの施策を真剣に考える必要があると思う。農業の後継者を育てる施策が必要。

（市政への要望）

- ・お城の土塁が南堀で改修されている中、東側が一段低くしているが、観光の面からもこの高さに合わせられないか。今のままであれば石垣がやっと見える程度である。
- ・歩道が良しで表面処理してある大手線や城西戦である。これはシルバーカーの運行がし難く、アスファルトのような平面舗装にならないか。
- ・自殺防止ののぼりを立てないでほしい。

（その他）

- ・無電柱化については、財源難時は無理である。菅官房長官がいったとしても問題外。電柱は日本の文化である。
- ・城の周辺だけが整備されているように思う。篠山市全般的に目を向けていただきたい。